

目 次

シンポジウム：コホート研究の現状と将来展望

開会の辞	青木 清	3
Keynote Lecture: Bridging of Different Fields and the Research Governance Method	Hideaki Koizumi	5
基調講演：領域架橋と研究ガバナンスの方法	小泉 英明	7
特別講演：施策提言に向けた総合的なコホート研究の必要性	金澤 一郎	23
出生コホート研究の現状と意義	山縣然太郎	31
「すくすくコホート」研究デザイン開発と次世代活用	安梅 勅江	39
社会脳科学とコホート調査	定藤 規弘	43
発達障害支援と学校教育へのコホート活用可能性	小枝 達也	49
指定発言より：調査科学と統計科学の立場から	前田 忠彦	61
指定発言より：発達心理学の視点から	河合 優年	65

シンポジウム：医師の使命を考える

シンポジウム「医師の使命を考える」開催にあたり	三浦 靖彦	71
開会の挨拶	赤林 朗	73
第1部 医師・医学生の立場から		
はじめに	荻野美恵子	75
医師・医学生の立場から1	大生 定義	77
医師・医学生の立場から2	竹下啓, 堂園俊彦, 長尾式子, 神谷恵子, 木下正一郎, 有田悦子, 杉本勝彦	87
医師・医学生の立場から3		
医学生の立場から優れた医師像, 医学生の使命を考える	戸谷 遼	95
第2部 チーム医療の立場から		
はじめに	長尾 式子	101
チーム医療の立場から1	加部 一彦	105
チーム医療の立場から2	江口 恵子	107
チーム医療の立場から3	平井みどり	109
第3部 患者・社会の立場から		
はじめに	堂園 俊彦	113
患者・社会の立場から1 医師の使命を考える：		

2010年に問題設定することの意味	齋藤有紀子	115
患者・社会の立場から2		
患者は医師に何を期待しているのか?	大井 賢一	117
患者・社会の立場から3 現代における医師の使命	樋口 範雄	125

研究会報告

元気と病気の間になにがあるか? :

状態・介入・アウトカム	長澤 道行, 津谷喜一郎	133
-----------------------	--------------	-----

編集後記

投稿のご案内および規定